

2021/8/3

(オマケの英語教室)

Exciting と excited



(神田外語学校提供のものを使用)

T シャツに書かれている英語を単なるデザインとしか思っていない、特に女性の方に読んで戴きたい「要注意」なお話です。

海外旅行中にある邦人女性が襲われたとか。

逮捕された外国人の若者に警官が

「何故こんなことをしたんだ？動機は？」

と尋ねたところ

「Why? Never ask me such a stupid question!! Because on her T-shirt, “Exciting Girl” was written. She invited me. Hey, come on!! It was」

(何故か、って？アホな質問すんじゃねえよ。だって彼女の T シャツに「○せ子」って書いてあったぜ。あいつが誘ったんだ。ねえ、来なよって事だぜ)

此処で申し上げたいのは「自分が興奮している」場合は受動形で形容詞化した excited で、「相手を興奮させる」場合は使役能動形の exciting となっているのを間違えると大変なことになりますよと言うことです。

他にも Exhausting girl なら「(私って) 相手をものすごく相手を疲れさせちゃう子なの」になり、それを相手が聞いたらその後の反応は「そんなヤバいのはいない。他に行ってくれ」になるでしょうし、 exhausted girl なら「(私) 疲れきっているの」なら、その後の相手の反応は「大丈夫か？出来ることはするから遠慮なく言ってくれ」になるでしょうから、受ける反応はものすごい差となって現れてくる訳です。

更にこの使役能動形と受動形形容詞化の違いの例を有名な単語を使って言えば

interesting story は「興味を持たせる話」で interested in なら「～に興味を持つ」

となります。

他には Surprising は「びっくりさせる」で surprised は「びっくりした(する)」も上記の話と同じです。

例えばですが、びっくり箱の事は surprising box というのかもしれませんが（不確です）
Shocking pink なら「ドキッとさせるピンク色」ですし I was shocked なら「私、ショックを受けたわ」でしょう。

こうやって文章にしてみると、どうも感覚、感情が伴う語句を使った話はみな、この使役能動形と受動形の関係が当てはまっているようです。

つまり、Exciting 等使役能動形は主体的な行為者がはっきりしているのに対し excited 等受動形形容詞化語句はその感情や感覚がどこからやってくるのかよく分からず、言い方は悪いですが「知らぬ間にその感情が自分に忍び込み、ある種自分がその感情に乗っ取られた」の感が無意識にあって受動形になり且つ形容詞化して「その様態を表す」様になったのかもしれない、と勝手に推測しております。

勿論自分の個人的見解ですが、そう考えると自分としては納得出来る気がしております。